

外部評価実施一覧

事務事業名 (所管課)	事業の意図	事業の概要	令和6年 度決算 額(千 円)	成 果				外部評価委員会	
				成果指標 (単位)	令和5年 度実績	令和6年 度実績	令和7年 度目標	今後の 方向性	意 見
博物館事業 (文化課)	玉名の歴史・文化の紹介を通して、市民の郷土愛を育み、各地に残る歴史的文化的遺産の継承にも繋げて行く。また、フェイスブックやホームページ等で市外の方にも玉名の様々な魅力を知つてもらい、来館者の増加と利用者の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品等資料を展示した企画展及び特集展示を開催する。 ・無料スペースでの展示・催し物を開催する。 ・講座、史跡探訪、天体観測等体験型学習会を開催する。 ・市広報紙等による博物館行事の情報発信を行う。 ・外部団体からの依頼に応じて出前講座を開講する。 	5,480	博物館来館者数 (人) ※1日平均	13	32	20	現状のまま 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館としての本来の目的は歴史・文化ということですが、説明にもあったように芸術・文化の側面も取り入れ、事業が充実すること、市民にとっても他市町村からの来館者にもありがたいことだと思います。 ・博物館や美術館でのオリジナルグッズは、来館者にとっては、お土産にもなるので嬉しいものです。ぜひ企画実現してください。 ・回答にもありましたが、現在行っている内容と並行して美術的な文化や展示の発信もお願いします。 ・市民の郷土愛を育むことは歴史を知ることでもあり重要な事業と考えます。また、来館者を増やすことで財源確保にもつながります。
				博物館有料来館者数 (人) ※年間	1,774	5,772	2,500		
子ども読書推進事業 (コミュニティ推進課)	図書館への関心を深めるとともに、子どもが読書に親しむ機会を提供し読書環境の充実に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが読書に親しめるように家庭、学校、関係機関等と連携・協力して読書に親しむ機会を提供する。 ・図書館から離れた保育所(園)・幼稚園・小学校を移動図書館車で巡回して貸出を行い読書に親しんでもらう。 ・ボランティアの協力で赤ちゃんと保護者にブックスタートパックを紹介し絵本を配布する。 ・各図書館でボランティアグループによるおはなし会を行う。 	876	幼児・児童・学生が読む本の貸し出し数 (冊) ※18歳までの利用者の年間利用冊数	104,328	102,246	105,000	現状のまま 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館運営の充実のために、電子図書読み放題パックをはじめ、新たな取組が進んでいることが分かりました。 ・子育て支援関係や教育機関との連携をさらに深めて、事業が継続・発展することを願います。 ・電気図書館のシステムはとてもいいと思いました。また、児童用のパックもぜひ広めていただきたいと感じます。 ・ブックスタートの母子手帳等はいいと思います。ぜひ実現してほしいです。 ・小さい子どもたちから読書をすることは思考力や読解力の習得にもなり、大変重要な事業です。今後も関係機関と連携し拡充してほしいです。
				幼児・児童・学生の利用人数 (人) ※18歳までの利用者の年間利用人数	25,141	23,933	26,000		
中学校部活動 地域移行支援事業 (スポーツ振興課)	①休日の地域部活動の推進について国、県、モデル校の状況を把握しながらスムーズに進めることができる準備を行っていく。 ②玉名市の6中学校の現状と課題を把握しながら「部活動の地域移行」を取り組めるよう検討し、実践していく。	休日の「地域部活動」・「合同部活動」を中心に取り組みを進めていく。	8,679	地域部活動進捗率 (%) ※地域部活動数/中学校部活動全部活数	30	87	100	拡充して 継続	<ul style="list-style-type: none"> ・運動部に関しては、あと少しですべての種目、競技の移行が完了するものと考えられます。しかし、部の数、競技の数、指導者数は現在よりも増えることは間違いないことですので、「拡充して継続」が妥当だと考えます。 ・スポーツを好きな中学生が、経済的な心配をせず続けることができるような施策を希望します。 ・特に気になる点はありませんが、受益者負担にてまかねるようになればいいと思います。 ・少子化への取組、特に教職員の労働時間の改善が大きく、部活動の段階的な地域移行は、生徒が多様なスポーツに親しむ環境を作る重要な事業です。今後も引き続きスムーズな移行ができるよう願います。

事務事業名 (所管課)	事業の意図	事業の概要	令和6年 度決算 額(千 円)	成 果				外部評価委員会	
				成果指標 (単位)	令和5年 度実績	令和6年 度実績	令和7年 度目標	今後の 方向性	意 見
ICTの効果的活用と 授業のデジタル化推進事業 (教育総務課)	本市では、GIGAスクール構想に伴い一人一台のタブレット端末を整備した一方、「電子黒板の整備」、「学習用端末でのAIドリルの整備」及び「プログラミング学習を効果的に行う為の機器」が十分に整備出来ていない。そこで、これらのICT機器を整備することで、個別・最適化された学びと協働的な学びの一体化の充実、また、主体的対話的で深い学びを可能とし、『教育の質の向上』と教育のDX化により教員の働き方改革を実現する。	左記の意図を達成するために、令和6年度に次のICT機器を整備しました。 (1)ディスプレイ型電子黒板 55台 (内訳:玉名町小25台、玉陵小16台及び岱明中14台) (2)AIドリル 市内全小学校の学習用タブレット端末にソフトを搭載 (3)pepperロボット 2台	41,086	電子黒板の使用頻度 (%) ※電子黒板を毎時間 使用する割合	—	29.7	60	拡充して 継続	・大きな補助を受けて急激に推進されている事業、現在の教育の中で最も変化の大きい事業だと考えます。今後の検証と改善がとても重要だと考えます。そういう意味で事業規模、質の向上の視点から「拡充して継続」すべきと判断します。 ・ICTの流れは、すべての場面で必要であり、教育の現場が少しでも良い方向に進んでいくためにもさらに拡充することが必要だと思われます。次世代への投資と考えれば、停滞せず進めていただきたいです。 ・ICT利用による教職員の負担軽減ができるればいいと思います。一方、各学校、先生による利用の偏りなどは気になります。 ・ICT教育は教育の質の向上と教職員の労働時間の改善となり重要な事業です。今後もICT教育の利点とマニュアル型の利点を考慮してより効果的な事業となるよう検討ください。
				小学校でのAIドリルの活用時間 (%) ※授業に活用した割合	—	72	50		
				宿題のデジタル化率 (%) ※宿題に活用した割合	—	60	50		
				Pepperロボットを活用した プログラミング教育時間 (時間／年)	—	601	250		
				児童の授業理解度 (%) ※授業がよく分かると回答する 児童の割合	—	43	50		
				生徒の授業理解度 (%) ※授業がよく分かると回答する 生徒の割合	—	28.1	30		
				熊本県及び全国学力・学習状況 調査の平均点向上 (点) ※小学校 国・数	—	73.9	全国平均 +3点以 上		
				熊本県及び全国学力・学習状況 調査の平均点向上 (点) ※中学校 国・数	—	57	全国平均 以上		
				AIドリル学習に対する 児童の満足度向上 (%)	—	93	75		
				プログラミング学習に対する 児童生徒の満足度向上 (%)	—	98	75		